

かわさき
川崎エコタウン

かわさき
川崎エコタウンって、
何だろう？



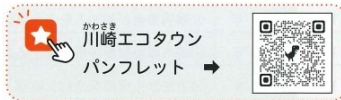
公害をなくすためにさまざまな取り
組みを行ってきたけど、現在はどのよ
うな取り組みをしているのだろう。

川崎エコタウンとは、川崎臨海部を構成する企業が主体となって、環境負荷を
できるだけ削減し、環境と産業活動が調和した持続可能な社会を目指すもの
ことです。

川崎市は、公害が発生した当時の「ものをたくさん作って使用し、捨てる」と
いう発想を見直してきました。1997（平成9）年にエコタウンプランを策定し、
川崎臨海部全体（約2,800ha）を対象エリアとして、政府（当時の通商産業省）
から、国内第1号のエコタウン地域の認定を受けました。

他の資料に、「北九州エコタウン事業」
というものがのっていたよ。

でも、国内第1号のエコタウン地域に
認定を受けたのは川崎市だったんだね。
川崎市の臨海部には多くの工場があっ
たね。過去に起こった公害問題をわすれ
ずに、今も環境を守るために市や工場が
取り組んでいるんだね。



わたしたちは、自然環境を大切にしながら
生活していくことが大切ですね。わたしたち
の身近なところでも、環境を守るための取り
組みが試みられていますよ。



みんなが使った後の食器を調理員さん
が洗っています。その時に使用している
洗剤が「きなりっこ」です。

市民の人たちの声でできた工場が作っ
た石けんです。未開封油からできた液体
石けん「きなり姫」もありますよ。



1960（昭和35）年ごろから水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜん
そくなど、公害による健康被害が社会問題となりました。このころ、川崎市でも
生活排水が原因で多摩川が泡だらけになったことが問題となります。そこで市民
の人たちは、自分たちが流している排水が公害の原因であることを知り、泡の原
因である合成洗剤を使わず、粉石けんを使用する運動を始めました。1989（平成
元）年には、家庭や学校給食、レストランなどで使われた食用油を回収して、石
けんを作りました。この石けんは川や海をよごさず、環境にやさしいものでした。
完成した石けんは、油を提供した小学校などで、給食の食器洗いに使用されまし
た。このように、川の環境を守る活動は、地域の人たちと協力して行うことが大
切です。

市内の小学校や親子で
考える環境学習の様子



わたしたちの周りにいる人たちが環境のことを考えて、いろいろな活動をして
いるんだね。わたしたちにできることって、どんなことだろう？



わたしたちにとって、環境のこ
とを考えると、とても大切なことだね。みんな
で考えたことを、これから取り組ん
でいこう。

